

# 用水路で小水力発電

自然エネルギー事業のエリス（岡山市南区福田）は今春、新見市の農業用水路で小水力発電事業を始める。一般家庭30世帯分の発電量を見込み、中国電力に全量売電。中国地方の民間企業では初の取り組みといい、地産地消型クリーンエネルギーの普及を目指す。（長田憲司）



小水力発電設備を設置する新見市の用水路

同市高尾の用水路（幅1・2㍎、深さ1・5㍎）に地元用水組合などの同意を得て、直径3㍎、幅1・2㍎の鉄製水車を設置する。出力は10㍎で、一般家庭30世帯分の年間9万6千㍎時を発電。同330万円の売電収入を見込む。エリスによると、中国地方で民間企業が小水力の全量売電に参入した例はないという。

事業費は約2500万円。4月にも稼働させる予定。同社は2007年から、岡山、広島、滋賀県の6か所で実証実験を行い、小水力発電に適した立地条件や水車の形状などノウハウを蓄積してきた。新見市の用水路は年間

## 一般家庭 30世帯分 水車置き全量売電

を通じて一定の水流があり、関係者の理解も得られたことから設置場所に選んだという。

国の再生可能エネルギー固定価格買い取り制度が12年にスタートして以来、太陽光は急速に普及したものの、発電量が不安定で電力会社側の受け入れ余力が限界に近づいている。一方、小水力は水利権の調整が難しく、採算性が低いとみられてきた。

エリスの桑原順社長は「小水力は安定した電源で、設置できる場所も多い。全国に水車を復活させて、エネルギーを自給自足できる地域を広げたい」と話している。

同社はLPガス販売のつばめガス（同）のグループ会社で、太陽光発電や太陽光パネルの販売が主業務。01年設立。資本金300万円。従業員3人。